

報告事項ク

平成29年度発達障がいと診断された幼児児童生徒の在籍者数調査の結果
について

平成29年度発達障がいと診断された幼児児童生徒の在籍者数調査の結果について、別紙のとおり報告します。

平成29年10月13日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

県内の発達障がいの幼児・児童・生徒数の推移について

特別支援教育課

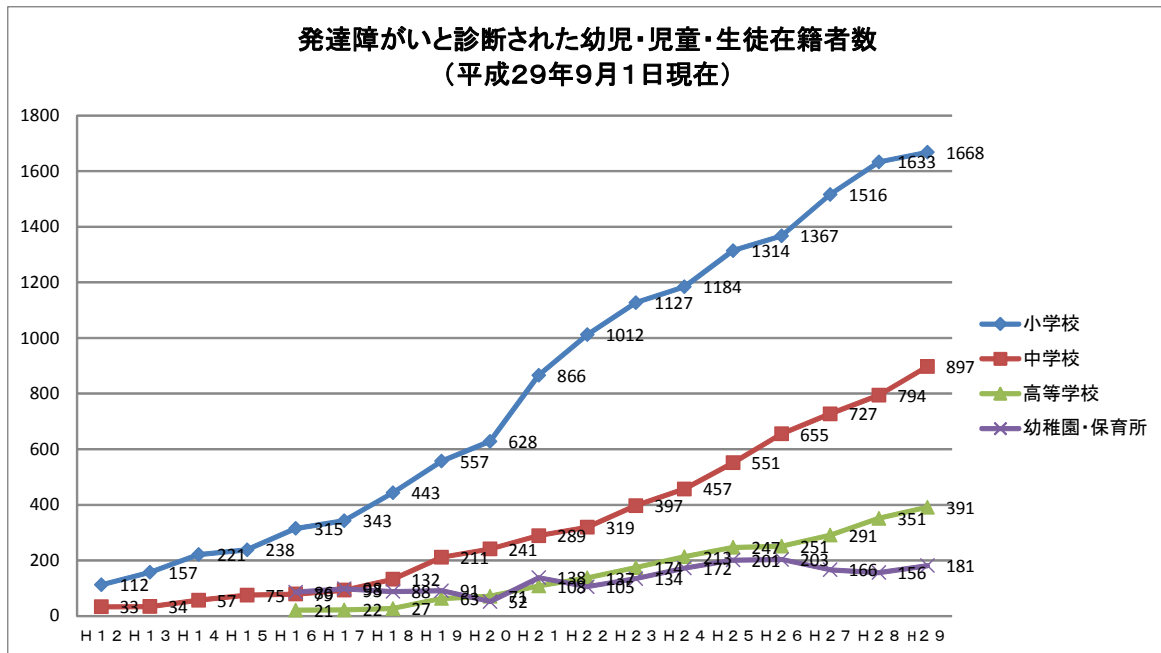
<調査について>

「発達障がいと診断された幼児・児童・生徒の在籍者数調査」

<内容>

県内の幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校（専修学校を含む）が把握している発達障がいと診断された幼児・児童・生徒在籍者数については下記のとおりである。

※幼稚園・保育所、高等学校は、平成16年度より調査を実施



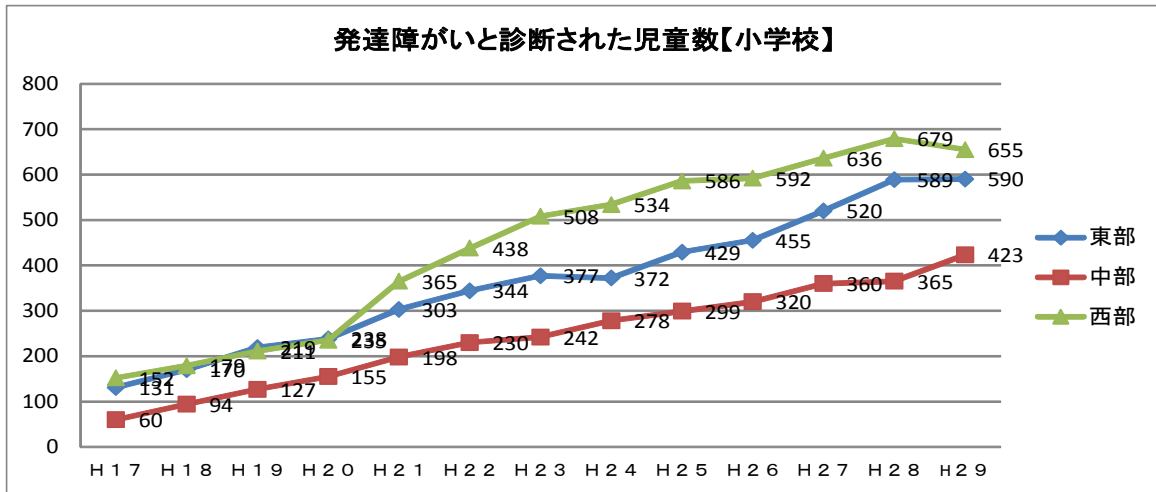
<推移について>

- ・幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校において、発達障がいの診断を受けていることを園・学校が把握している幼児児童生徒は年々増加している。

<全児童生徒数に対する割合（平成29年9月1日現在）>

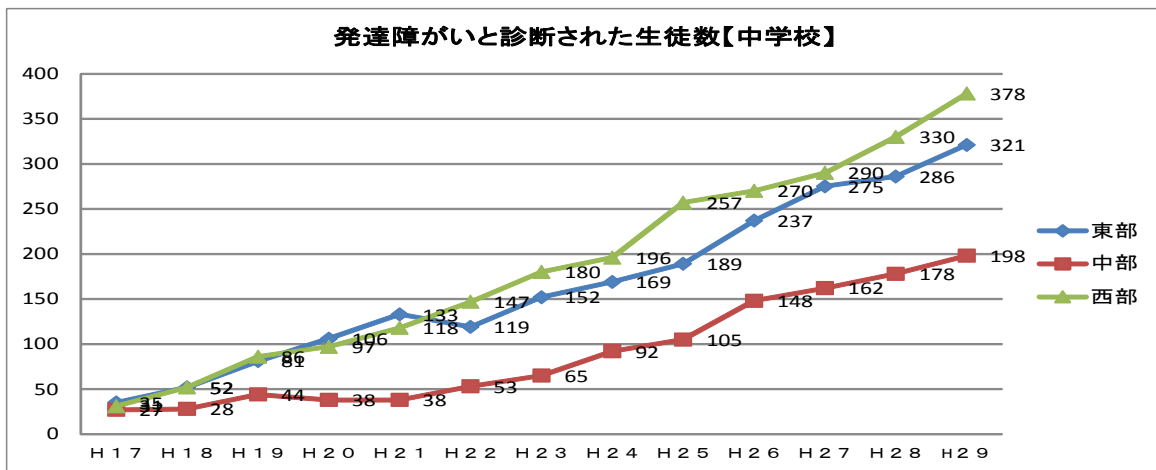
	在籍者数 (人)	全児童生徒数 (人)	割合 (%)
全体	2,956	61,096	4.8
小学校	1,668	29,395	5.7
中学校	897	16,012	5.6
高等学校	391	15,689	2.5

【参考1】 圏域・校種別の発達障がいと診断された児童生徒数の推移



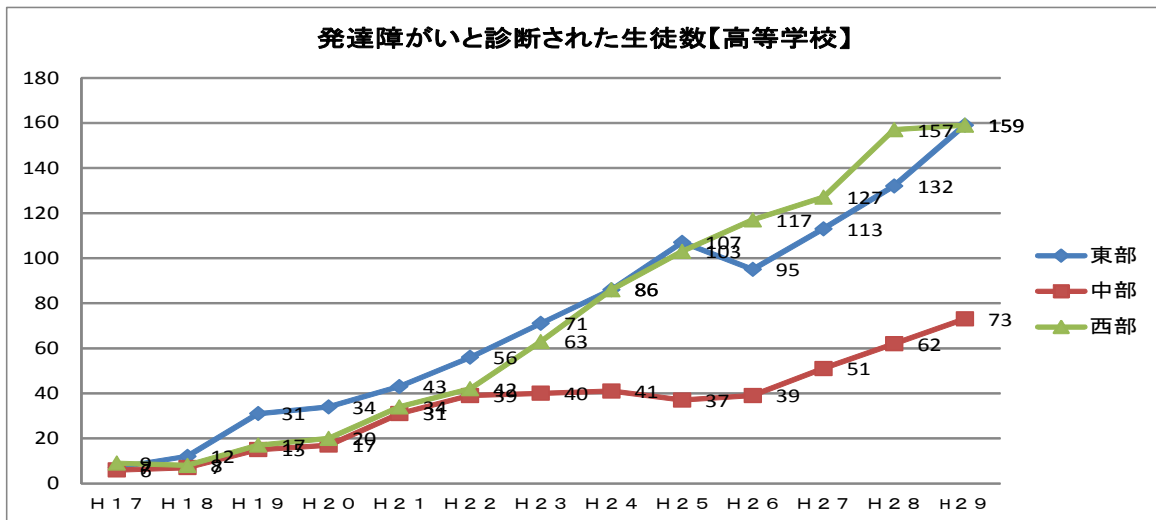
【小学校】 各圏域全児童数に対する割合

東部	中部	西部
4.9%	7.8%	5.4%



【中学校】 各圏域全生徒数に対する割合

東部	中部	西部
5.1%	7.1%	5.5%



【高等学校】 各圏域学校全生徒数に対する割合

東部	中部	西部
2.4%	2.8%	2.4%

【参考2】発達障がい診断を受けている児童生徒の教育の場について

<小学校>

(人)

	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9
全体	1,184	1,314	1,367	1,516	1,633	1668
通常の学級に在籍	836 (70.6%)	907 (69.0%)	918 (67.2%)	992 (65.4%)	1,057 (64.7%)	996 (59.7%)
上記のうち 通級による指導を受けている児童 ※母数は通常の学級に在籍する児童数		225 (24.8%)	265 (28.9%)	265 (26.7%)	281 (26.6%)	274 (27.5%)
特別支援学級在籍	348	407	449	524	576	673

<中学校>

(人)

	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9
全体	457	551	655	727	794	897
通常の学級に在籍	319 (69.8%)	389 (70.6%)	453 (69.2%)	505 (69.5%)	527 (66.4%)	600 (66.9%)
上記のうち 通級による指導を受けている児童 ※母数は通常の学級に在籍する生徒数		34 (8.7%)	40 (8.8%)	51 (10.1%)	77 (14.6%)	89 (14.8%)
特別支援学級在籍	138	162	202	222	267	297